

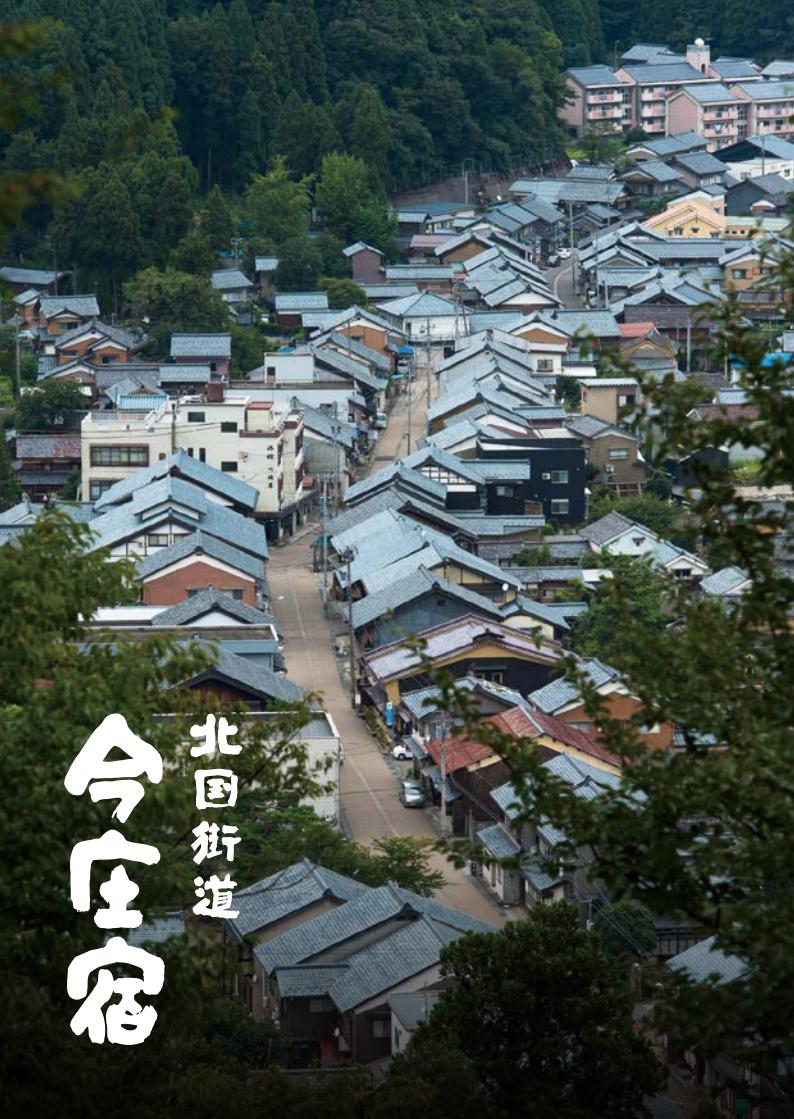


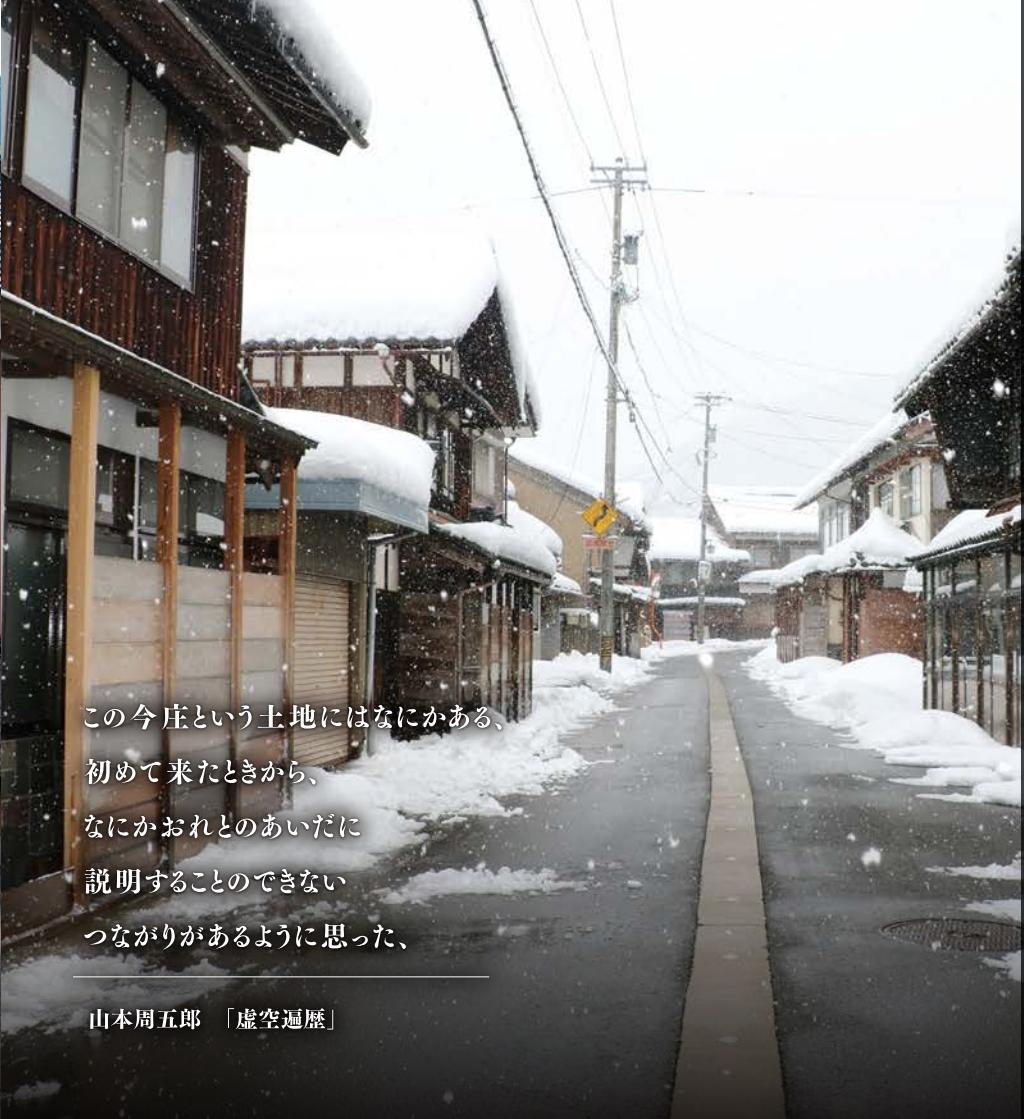
北国街道

今庄宿

重要伝統的建造物群保存地区

まちめぐりガイドブック





この今庄という土地にはなにかある、
初めて来たときから、
なにかおれとのあいだに
説明することのできない
つながりがあるように思った、

山本周五郎 「虚空遍歴」

かつての旅人が行き交った宿場町

幾重にも山が連なる今庄は、北陸随一の難所を背にし、この地を行き交う旅人は、みな今庄宿で疲れを癒し、峠を越えていきました。

このまちには、当時の風情がうかがえる宿場町の面影が今も息づいています。ゆっくりと歩き、先人が過ごした時を感じてください。

目次

今庄の歴史を探る	P.3
今庄宿の全景を見る	P.5
今庄ピックアップ	P.7
受け継がれる食文化	P.9
もっと楽しむ今庄	P.11
周辺観光のご案内	P.13

北陸の玄関口・今庄

北陸随一の難所を背にした、越前南端に位置する今庄。北陸と京、江戸をつなぐ道は山中峠越え、木ノ芽峠越え、栃ノ木峠越えとルートが変わっても必ず今庄を通りました。古くから峠越えの道がすべて集まる今庄は、北陸の玄関口として、交通の歴史とともに歩んできました。



北陸

山中峠

木ノ芽峠

栃ノ木峠

北陸道（西近江路）

木ノ本

北國街道往還

今庄宿

京・伊勢・江戸
北国街道（東近江路）

木ノ本



3つの峠

山中峠

古代の北陸官道。大伴家持などにより山中峠越えの道を詠む歌が万葉集に残されていることから「万葉の道」とも呼ばれています。

木ノ芽峠

天長7年(830)に開削された新道で、古代・中世の北陸道。紫式部や親鸞、信長・秀吉軍、松尾芭蕉らもこの峠を越えていました。

栃ノ木峠

天正6年(1578)頃、信長の居城である安土城参勤の最短路として柴田勝家が整備。北陸における軍事・経済の基幹道路となり、「北国街道」と呼ばれました。

越前屈指の宿場町として繁栄

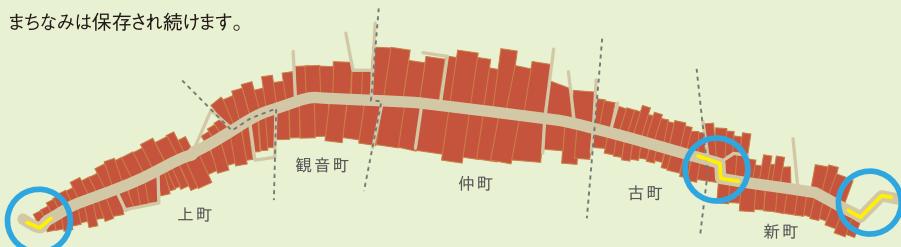
険しい峠を背にする今庄宿は、京や江戸に行き来する越前国各藩や旅人が、必ずといっていいほど利用しました。江戸時代のある旅日記には、茶店で田楽やそばが売られ、都なまりの言葉で呼び込みをする今庄宿のにぎやかな情景が記されています。幕末の記録では旅籠屋55軒、茶屋15軒、酒屋15軒などがあったとされ、大きな宿場町として繁栄した様子がうかがえます。また、東海道など五街道の主要な宿場とほぼ同じ頭数の馬の常備が義務付けられていたことからも重要な宿場町であったことが分かります。



今庄宿のまちなみ | 重要伝統的建造物群保存地区 |

初代福井藩主・結城秀康は北陸道を整備するにあたり、今庄を重要な宿駅として防御に配慮したまちなみを整備。街道に沿ってまちが形成され、宿の中心地には本陣や脇本陣、問屋場など重要な施設が集まりました。

その町割りや道幅は江戸時代からほぼ変わっておらず、現在も当時のまちなみを感じることができます。令和3年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、今後もこの古いまちなみは保存され続けます。



短冊状の町屋敷

表間口に対して課税されたため、間口の狭い町家が櫛の歯状に立ち並んでいます。



かねおり 矩折

まちの防御に配慮し、急に屈折して遠くを見通せないように街道が作られています。

宿場町から 鉄道のまちへ

明治時代になると江戸時代の宿駅制が廃止されました。さらに、陸運の手段が人力車や荷車に変わり、平らで起伏のない道が必要となったため、明治21年(1888)に新国道(現在の国道8号)が開通。今庄を往来する人は減り、かつての活気を失っていきました。

しかし、明治29年(1896)に北陸線敦賀一福井間が開通。北陸最大の鉄道難所となった今庄一敦賀間の峠越えに挑むため、今庄は蒸気機関車の連結・取り外しを行う鉄道基地になりました。近代化へと進む時代のなかで、今庄は「鉄道のまち」という新たな使命を得て、再び活気を取り戻していきました。



今庄宿の全景を見る

全長約1km 今も生きている宿場町

西には山が連なり東には日野川が流れ、山の地形に沿ってゆるやかに曲がる道。山すこし集中する社寺、河川側の鉄道、その間を埋めるようにまちが広がります。

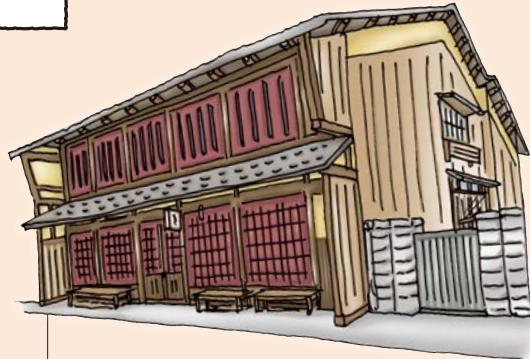




pick up 1
今庄宿の建物

今庄の伝統的民家

今庄宿の多くの町家は、正面から屋根面が見える「平入り」という形で、火事の際に隣家からの延焼を防ぐための卯建や土壁、豪雪に耐える太い登り梁、面格子や格子戸などの特徴が見られます。



はたご
旅籠 若狭屋

国登録有形文化財

天保年間(1830~1844)建築

旅籠屋は本陣や脇本陣とは違い、一般旅行者を泊めて食事を提供する宿のことです。今庄宿では、幕末に55軒もの旅籠屋があり、そのなかでも若狭屋は大きな旅籠屋でした。現在は、地元NPO法人が管理し、まちづくり活動の拠点として活用しています。

京藤甚五郎家

県指定有形文化財

天保年間(1830~1844)建築

今庄宿でひときわ異彩を放つ家。江戸時代、酒造業を営む一方で、脇本陣にも指定された今庄宿有数の旧家です。県内最古級の町家で、屋根には卯建が上がり、外壁は全面塗籠するなど、当家の財力と強い防災意識がうかがえます。



今庄宿昔話

水戸天狗党、

今庄宿に刻んだ刀傷

幕末の元治元年(1864)、尊王攘夷を訴えるために上京した武田耕雲斎率いる水戸天狗党は、同年12月9日に今庄入りしました。住民は天狗党を恐れて隠れ、今庄宿はひっそりしていたといいます。京藤甚五郎家には酒を飲んで気勢をあげた浪士の刀傷が今も残されています。その後、今庄を発った一行は敦賀で降伏しました。



京藤甚五郎家に残る刀跡

pick up 2

今庄の
人

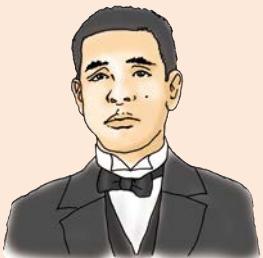
今庄の“偉人” 田中和吉

今庄の功労者である田中和吉氏(1876～1933)は仲間と多くの事業を興し、その重役として郷土の経済発展に尽力しました。後年、私財を投じて昭和会館の建設や福井藩本陣跡の整備を行い、財団法人「啓潤会」を設立して社会教育と福祉の増進に人生を捧げました。

和吉語録

いちいち世間の思惑を気にしている日には、
何時になっても何ひとつやれるものではない

“人徳のある変人であれ”



社会から得た富は、
最早利用しえない時に至ったならば、
未練なく社会に還すべきである

和吉氏の偉業



昭和会館

国登録有形文化財

昭和5年(1930)、田中和吉氏は私財を投じ、脇本陣跡に社会教育の拠点となる「昭和会館」を建設しました。当時としては画期的な鉄筋コンクリート3階建ての建物は、宿泊のできる研修の場として多くの団体に利用されました。その後は、今庄町役場にも利用され、現在は公民館や地域交流の場として幅広く利用されています。



明治殿と 公徳園

国登録有形文化財

昭和7年、田中和吉氏は、明治天皇が宿泊された本陣の居室を移築し、本陣跡に明治殿として建設しました。また、その前庭を公徳園として整備し、憩いの場として提供しました。

pick up 3

今庄の
遺産

北陸道と北国街道の追分 文政の道しるべ

町指定史跡



今庄ピックアップ

北陸道(木ノ芽峠越え)と北国街道(柄ノ木峠越え)の分岐点にあり、文政13年(1830)に笏谷石で建てられました。頭部に笠木や火袋がある珍しい造りで、石柱には「右京 つるが 道
左京 いせ 道」と刻まれています。



今庄 × 地酒

今庄を囲む山々から湧き出る清冽な水と良質な米、しんしんと冷え込む冬の寒さが、この土地ならではの味わいを持つ酒を生み出しています。宿場町として栄えた今庄の酒は、街道を往来する旅人の喉を潤し、江戸時代には15軒の酒屋が軒を連ねていました。現在も約1kmの街道沿いに4軒の酒蔵があり、歴史ある蔵で昔ながらの丁寧な酒造りを営んでいます。



風土を醸す

鳴
瓢
り

堀口酒造 《大屋》

元和4年(1618)創業。酒銘の「鳴り瓢」は、福井の歌人・橘曙覧が詠んだ歌「とくとくと垂りくる酒のなりひさご うれしき音をさするものかな」にちなんで名付けられました。

聖
乃
御
代

北善商店 《善六》

享保元年(1716)創業。藩札と金銀を両替する御札場を勤めた北村家の造り酒屋。酒銘「聖乃御代」は、戦後、平和な時代への祈りを込めて京都の高僧が命名したと伝えられています。

今も残る4軒の酒蔵

白
駒

白駒酒造 《中大》

元禄10年(1697)創業。徳川將軍奉行所により「古代酒監札」を交付された京窓家の酒蔵。今も伝統の技を受け継ぎ、「白駒」をはじめ昔ながらの手づくり製法で酒を醸しています。

雪
きら
し

畠山酒造 《玉や》

天保6年(1835)創業。旅籠を営みながら自家製のにごり酒を提供したのが始まりです。杜氏が丹精込めて醸す「雪きらし」「百貴船」で知られます。

北陸路の懇いの味

今庄 × そば

昼と夜の寒暖差が大きい今庄は、古来からそばの栽培がさかんでした。そばは郷土の食文化に深く根差し、「そば打ちができないとお嫁に行けない」といわれたほど食卓に欠かせない料理になりました。

今庄そばの醍醐味は、歯ごたえと風味のよさ。宿場町から鉄道のまちに移り変わり、現在にいたるまで、今庄を訪れる旅人の大きな楽しみになっています。毎年5月には地元住民が腕をふるう「今庄そばまつり」も開催されます。



昭和初期、今庄駅のホームには停車時間を利用して「立ち食いそば」の店ができ、今庄そばの美味しさが全国に知れわりました。

旅人めし



旅人の元気の源 今庄つるし柿

450年の歴史をもつ「今庄つるし柿」は、どんなに空腹でも「一つ食えば一里、三つ食えば三里歩ける」といわれ、北国街道を往来する際の携帯食として重宝されました。全国でも珍しい燻製した干し柿で、独特的の舌触りとまろやかな甘さが特徴です。



旅人伝來の郷土食 茶飯



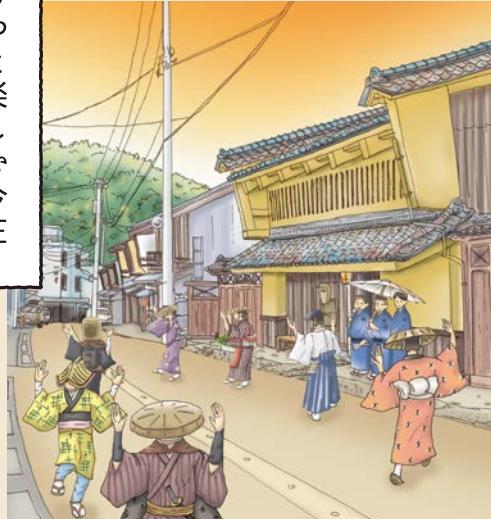
もち米とうるち米に炒り大豆を混ぜ、お茶(番茶)で炊いた伝統食「茶飯」。奈良の東大寺・興福寺などで始まった「奈良茶飯」が由来とされ、街道を往来した人々によって伝わったといわれています。今庄の冠婚葬祭や行事に欠かせない郷土の味として愛されており、イベントやお土産販売所でも気軽に購入することができます。

踊り継ぐ文化

福井県指定無形民俗文化財 羽根曾踊り

10世紀初め頃、今庄西方の寺院で舞われた稚児舞が起源とされ、今庄宿の隆盛とともに盆踊りになりました。旅人も住民と一緒に踊り明かしたといわれ、その風情を今に伝えるかのよう、踊り手は町人や旅人、武士、僧侶など、さまざまな仮装姿をしています。

現在でも今庄夏まつりや、街道浪漫・今庄宿などのイベントで踊られています。



歴史を歩く

ひうちがじょう

町指定史跡

燧ヶ城跡とハイキングコース

今庄宿の西にそびえる藤倉山の東、標高270mの愛宕山山頂にある燧ヶ城跡は、寿永2年(1183)に木曾義仲が平家軍を迎撃つために、仁科守弘らに命じて築城しました。源平盛衰記には「北陸道第一の城郭なり」と記され、砦や本丸跡には石垣が残り、その周囲には空堀や切り掘も見られます。山頂からは今庄宿を眼下に一望することができ、新羅神社から燧ヶ城跡、藤倉山へと登るルートは、手軽に楽しめるハイキングコースとして人気です。



まち歩きが
さらに楽しくなる!
今庄の歴史が集まる
今庄駅



今庄まちなみ情報館

宿場町から鉄道のまちへ、交通の発展とともに歩んだ今庄の歴史を分かりやすく紹介。昔の今庄駅を再現した1/45スケールのジオラマは必見です。

**江戸時代から
愛された逸品**

高野由平商店の梅肉・紅梅液

江戸時代から愛される甘露梅肉と、梅肉づくりの工程で生まれる紅梅液が、昔のままの土蔵で作られています。秘伝の製法を守る高野家は江戸時代に旅籠を営んでおり、若狭国小浜藩主が土産に携えた西田梅を加工し、宿泊客にふるまつたのが始まりといわれています。

宿場町の地酒飲み比べ

歴史が醸す四蔵元物語

今庄宿に残る江戸時代創業の4つの蔵元の地酒を飲み比べ。ラベルには酒蔵の屋号が記されています。







定番のお土産

越前今庄半生そば
今庄産そば粉使用

ご自宅で今庄そばが味
わえます。石臼びきの
自然の風味を活かした
香り高いそばです。



今庄そばっこ

今庄の
新しい和スイーツ

香りの良い今庄そばを
使った和スイーツ。

香り深い
大人の味わい



燻製 今庄つるし柿 チョコレート

燻製の干し柿とカカオ、洋酒が燻る大
人の味わい。第9回福井県優良観光土
産品審査会で最優秀賞を受賞。



地酒 meets スイーツ

蔵のかしゅていら

地元中学生が考案。今庄の地
酒入りシロップをしみこませた、
しっとり柔らかなカステラ。



イベント情報



今庄そばまつり

毎年、地元のそば店が集結し、
それぞれの腕をふるいます。素朴
な今庄そばの味くらべをお楽しみく
ださい。



9月

街道浪漫・今庄宿

全長1kmの街道を歩行者天国と
し、自慢の今庄そばや地酒など郷
土の味を楽しむ店でにぎわいま
す。羽根曾踊りも見もの。



宿の市

今庄の旬の地元野菜やお惣菜
の販売、クラフト体験などが楽し
める市場を定期的に開催してい
ます。



JAPAN HERITAGE

日本遺産

北前船主の館 右近家

日本海五大船主の一人として活躍した右近家

江戸後期～明治中期にかけて、日本海・瀬戸内海・上方の諸地域間の物資の流通や文化の交流に重要な役割を果たした“北前船”をテーマとした資料館です。また、右近家から北に伸びる「河野北前船主通り」には、船主や船頭の邸宅などが建ち並び、北前船が栄えた歴史を垣間見られます。これらは平成29年に「北前船寄港地・船主集落」として日本遺産に認定されました。

開館時間	9:00～16:00
休館日	毎週水曜日/年末・年始(12月29日～1月3日)
観覧料	大人(一般・大学・高校) 500円 団体450円 小人(小中学校) 300円 団体270円
お問合せ	※令和6年4月に観覧料の改定あり 0778-48-2196



今庄宿から車で約25分



花はす公園

花はすのまち南越前町

南越前町は花はすの作付面積日本一のまちです。花はす公園には世界の花はす約130種類が集められ、7～8月にかけて咲き誇る幻想的な姿が訪れる人の目を楽しませています。

また、隣接する宿泊施設「花はす温泉そまやま」では、日帰り温泉も楽しめます。



オススメイベント
はすまつり

6月 7月 8月

はすの茎を通して飲む象鼻杯や、はす染め体験、花はすの撮影会など花はすをテーマにイベントが繰り広げられます。



今庄宿から車で約15分



ト 旧 北 陸 線 群



日本遺産

連続する明治期の鉄道トンネル

南越前町から敦賀市に点在する、旧北陸線の隧道(トンネル)を中心とした鉄道遺産群です。北陸最大の難所といわれた今庄一敦賀間の峠越えのために掘られた12基のトンネルは現在も10基が残されており、狭く暗いトンネルをいくつもくぐると昔の鉄道気分が味わえます。これらは、国の登録有形文化財に登録されるだけでなく、令和2年に日本遺産に認定されたストーリーの構成文化財にもなっています。



今庄宿から車で約10分



福井県を嶺北と嶺南に分ける地

木ノ芽峠

天長7年(830)に北陸道が開削されて以降、源経や蓮如、朝倉氏一族、織田信長、豊臣秀吉、松尾芭蕉、水戸天狗党などが峠を越えてきました。

今庄宿から車で約30分



越前国の入口

板取宿

江戸時代には関所も置かれた宿場町。現在も江戸後期から明治後期にかけて建てられたかやぶき屋根の民家が4戸残っています。

今庄宿から車で約15分



そば道をうならせる今庄の「そば」を打つ

今庄そば道場

石臼でひいた純正のそば粉と天然の山芋を合わせ、湧き水で打つ本格そば打ちを子供から大人まで幅広く体験できます。

今庄宿から車で約5分



温泉も楽しめるスキー場

今庄365スキー場

福井県内でも関西エリアから一番近いスキー場。温泉も併設し、山頂からは日本海や白山連峰が一望できます。

今庄宿から車で約15分





お問い合わせ

南越前町 観光まちづくり課
福井県南条郡南越前町東大道29-1
TEL. 0778-47-8002

(一社)南越前町今庄観光協会
福井県南条郡南越前町今庄74-3-1
TEL. 0778-45-0074

(一社)南越前町観光連盟
福井県南条郡南越前町牧谷39-2-2
TEL. 0778-47-3414

鉄道の堤

発行 令和6年3月